

## 第1章 マニュアルの目的

【目指す姿】 <ひろしま子供の未来みんなで応援プラン> (令和7(2025)年3月策定)

- ◆ ヤングケアラーとその家族が、地域やさまざまな関わりの中で見守られながら、それぞれの意向や希望に応じて必要な支援を受けることができている、ヤングケアラー本人の学業や友人関係、将来等への不安、ならびに家族全員が日々の生活に不安を感じることなく暮らすことができます。

少子化や高齢化の進展に加え、働き方や家族の形が多様化する中、これまで潜在していたさまざまな問題や課題が明らかになっています。特に、大人が担うようなケアや家事、家族の世話など、年齢に見合わない重い責任や負担を背負い、学業や友だちづきあい、自身の健康などに不安や悩みを抱える「ヤングケアラー」と呼ばれる子供・若者の姿が明らかになってきました。

「ヤングケアラー」は家庭内のデリケートな問題であることから表面化しづらく、周囲の大人のみならず、子供自身や家族もヤングケアラーであることに気づいていない、誰にも相談を出来ていない状態にあることが分かってきました。

広島県が実施した「子供の生活に関する実態調査」(R5)によるアンケート調査では、「あなたは自分がヤングケアラーにあてはまると思いますか？」の問いに「あてはまる」と回答した子供は、それぞれ1%台ですが、「分からない」と回答した子供は、小学生で約30%、中学生で約20%を占める結果でした。「ヤングケアラー」自体の認知が十分ではない実態がうかがえる結果であり、また、回答した中には、自身がヤングケアラーであると判断できない場合も含まれるものと考えられます。

広島県では、令和6年3月に第2期広島県地域福祉支援計画を策定し、地域共生社会の実現に向けて、

- ① 「気づき」「気に掛け」「手を差し伸べる」人を増やすこと
- ② 早期に発見し、早期の解決につながることを
- ③ 安定的かつ継続的に「安心した暮らし」を送れる仕組みを作ること

を「取組の方向性」に据え、施策の充実を図っているところです。

ヤングケアラー対策についても、冒頭の「目指す姿」を実現するためにこの「取組の方向性」に沿って、ヤングケアラーに早期に気づき、適切な支援につなげ、抱えている問題を解決するために、子供たちにとって身近な機関が連携し、一人一人の子供の状況に合わせ、きめ細かに寄り添った支援をすることが必要です。

そのため本マニュアルでは、ヤングケアラーの問題が有する課題ごとに、上記「取組の方向性」の①～③に沿った対応方法や考え方を整理することを試みました。

ヤングケアラーである子供たちが、やりたいことや夢を「仕方ない」と諦めることなく、自分の人生を自分の選択で歩めることができるよう、ヤングケアラーやその家族を支え子供をまんなかにした援助をするために、本マニュアルを活用いただくと幸いです。

本県におけるヤングケアラー支援の取組は始まったばかりです。今後、支援事例を積み重ね、本マニュアルについてもさらに充実した内容となるように必要に応じて改訂してまいります。

※本マニュアルでは、スクールソーシャルワーカーは「SSW」、スクールカウンセラーは「SC」と表記します。

## マニュアルの対象と活用方法

### (1) マニュアルの対象

このマニュアルは、ヤングケアラーへの支援を行う自治体担当者を主な対象としつつ、ヤングケアラーへの支援に携わるすべての支援機関及び支援者の方にも活用いただくことを目指して作成しています。

### (2) マニュアルの活用例

マニュアルでは、「第2章 ヤングケアラーに関する基本事項」において、ヤングケアラーの捉え方、ヤングケアラーの置かれている状況など、ヤングケアラーに関する基本的な事項をまとめています。次いで、「第3章 ヤングケアラー支援の各プロセスにおける基本事項」では、支援の流れに沿って、支援におけるポイントや連携体制の構築や会議の進め方を紹介し、最後の「第4章 付録」では、支援を行う際に活用可能なツール(アセスメントシート例や支援計画例)などを紹介しています。